

なれば、其の在世は勿論武徳年間に當りしものと見ざる可らず。

特健俟斤に就きては兩唐書の記する所、只だ上に引ける所に止れば、何等當時の有様を窺ひ知り得べきに非ず、只だ Selenga 河邊に住み、突厥に従屬したる唐代の回鶻部中に、始めて君長〔六〕を生じ、其の部落に統一を生ずるに至りたる次第を知り得べきのみ。

## 第二章 菩薩の時代

回鶻の第二代の部長を菩薩と曰ふ、特健俟斤の子なり、回鶻の聲名の北方に振ふに至りしは實に菩薩の時を以て初めとす、舊書廻紇傳によれば、特健俟斤の子を菩薩と曰へりとし、續きて

部落以爲賢而立之、……菩薩輕勇有膽氣、善籌策、每對敵臨陣、必身先士卒、以少制衆、常以戰陣射獵爲務、其母烏羅渾主知爭訟之事、平反嚴明、部內嚴肅、廻紇之盛、由菩薩之興焉

と記し、新唐書回鶻傳及び唐會要等の記する所も略ぼ之に同じ、而して菩薩が急に回鶻の勢を振張せしめたるものを、貞觀元年（六二七年）に於る突厥との戦なりとす、舊唐書廻紇傳は此の次第を敘して

貞觀初菩薩與薛延陀侵突厥北邊、突厥頡利可汗遣子欲谷設、率十萬騎討之、菩薩領騎五千、與戰破之於馬鬣山、因逐北至於天山、又進擊大破之、俘其部衆、廻紇由是大振

と記し、新唐書回鶻傳も殆んど全く之に従ひ、更に

繇是附薛延陀、相唇齒、號頡利發、樹牙獨樂水上